

中札内村観光振興基本方針(案)概要

1 計画の考え方

- ・策定趣旨：本村の観光振興における基本的な方向と具体的な取組み設定を行い、今後の指針とする計画
- ・位置づけ：第7期中札内村まちづくり計画に基づく個別計画
- ・計画期間：令和8（2026）年度～令和11（2029）年度

2 中札内村の観光の現状と課題

○観光入込客数

- ・令和6年度は84万人（道の駅なかさつない65万3千人）で、コロナ禍から回復傾向。

○課題と対応方法

- ・村を訪れる人は、どこに魅力を感じているか不明。
※アンケートの精度を上げ分析が必要。
- ・その土地ならではの魅力を掘り下げ誘客につなぐ「地域ブランディング」に欠ける。
- ・「花の村づくり」の後継者問題
- ・観光ガイド人材の確保
- ・魅力的な観光施設が点在しているが、それを繋ぐ交通手段が限られている。
（帯広空港とのアクセスも課題）
- ・キャッシュレス、多言語対応など外国人ニーズへの受入体制が不十分。帯広と韓国を結ぶ国際定期便が就航したことから、訪日外国人観光客の誘客に期待。
- ・「日本で最も美しい村」連合に加盟しているが、観光資源として「景観」を活かしきれていない。道内の連合加盟村と連携した取組みの推進を。
- ・「食」は、道の駅ランキング2024（北海道開発局）で「いちおしの“おいしいもの”」8位など高評価を受け強みである。更なる魅力向上へ向け取組みの推進を。
- ・イベントは、類似するものを整理し団体の垣根を越えた連携が必要。
- ・国立公園内に位置する札内川園地は、施設の老朽化対策や入込客数の増へ向けた方策、「保護」と「利用」の両面から今後のあり方を検討することが必要。

3 今後の方向性・めざすべき姿

観光分野の戦略を総花的に進めるのは効果的ではなく、「選択と集中」を方針の根底に据え、本村最大の観光入込客数を誇る道の駅なかさつないを中心に事業展開をすすめる。

- ・ターゲットは、道の駅をいつも訪れてくれる「村民」「近隣の方」
- ・コンセプトは、「食」と「景観」
- ・アンケートによる村の観光の魅力分析
- ・当面の目標：道の駅入込客数 **70万人突破**

